

No.2930

『トルコにおけるイスラーム神秘主義思想と実践』の刊行

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

イスラーム地域研究センター 客員准教授

イディリス・ダニシマズ

本書（イディリス・ダニシマズ『トルコにおけるイスラーム神秘主義思想と実践』ナカニシヤ出版、2019年）は、イスラームのジハード（語義は「奮闘・努力」）の二つの意味、すなわち「戦場における敵との戦い」と「自分のエゴとの戦い」のうち、後者を重視するイスラーム神秘主義思想（スーフィズム）を対象とする。さらに言えば、イスラーム世界の一大帝国であったオスマン帝国の代表的神秘家（スーフイー）、ブルセヴィー（Ismail Hakki Bursevi、1725年没）の神秘主義思想を、彼のクルアーン（イスラームの聖典）解釈と神秘的な宇宙論にみられる、「倫理的・実践的解釈」という独自の視点から分析したものである。分析の詳細については、本書を参照していただきたいが、ここでは、本書の刊行の意義と期待される波及効果について述べた。

本書の刊行は、テロや紛争等の情報によって歪曲されている日本のイスラーム理解の是正に貢献できたとと言える。実際、現今のイスラーム関係の書籍では、宗教と暴力が関連付けられることの多いイスラーム原理主義に著述の重点が置かれ過ぎており、イスラームのより平和的な側面が無視されがちであると専門家は評価している。スーフィズムはイスラームの平和的側面に関するものであるために、それを扱う本書は、よりバランスのとれたイスラーム認識の形成にも役立つだろう。

また、近年、欧米で発生したテロの多くが非イスラーム世界の国籍を持つムスリムによる犯行であると報道されている。このようなテロ犯は、自らの過激主義の正当化のために、しばしば、過去の紛争時における法学的見解を好む。そして、それを、そのコンテキストから切り離して、現代社会に適用しようとする。であるならば、彼らの武力闘争思想に対しては、伝統的な宗教思想のなかから理論的反論を示すことが重要となる。従って、スーフィズムに関するものであるため、本書は、現代国際社会の重大な問題の一つであるムスリム社会における急進化・過激化を抑止する一助となると期待する。